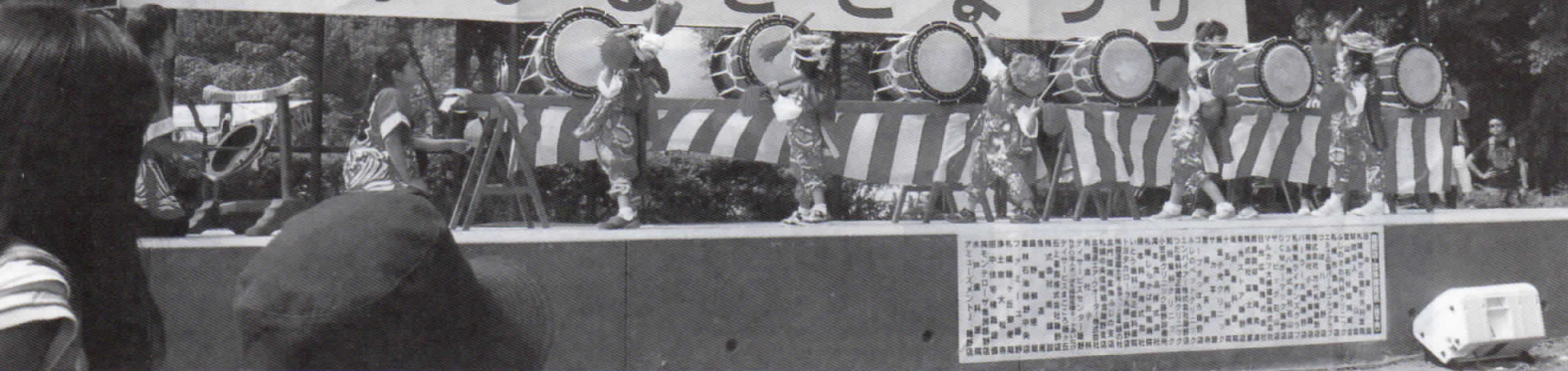


藤野ふるさとまつり



住んでよかった藤野をめざして

副会長 石村 勇雄

心のふれあい
ふるさとまつり

第二十七回藤野ふるさとまつりが今年も大勢の方々が集い、会場もスタートの頃の十五島公園に戻りました。

ステージでの熱演発表に大喝采、お楽しみ抽選会では、番号が発表されるたびに興奮する一時もありました。

また、夕刻より子どもや大人の盆踊りタイムがありました。さらに、多くの出店もあり、お祭り気分が一段と盛り上がりました。

今年も参加できてよかったという笑顔の表情に出合えてよかったです。

この喜びは、まつり実行委員会の努力は勿論のこと、騒音や迷惑駐車、交通渋滞など大きなトラブルもなく地元町内会のご理解とご協

力があつたからこそです。これからも親睦の輪がさらに広がり、心のふれあう住みよい藤野のまつりに発展させていきましょう。

見直しと継承

町連結成から四十八年目、初期の目的および「まちづくりビジョン」に基づいて事業を継承し進めて来ました。

しかし、今、社会の情勢の変動にともない、従来の目標の継承を重視しながらも常に見直しが必要とされています。

例えば、藤野地区自主防災力の強化の目的で非常用無線機を全町内会に配置し、通信訓練をして体制を整えました。しかし、今は、携帯電話の普及で、無線機は不必要になってきました。さらに電波料もかさむこと

により町連としては廃止の運びとなりました。

また、AEDの設置による普通救命講習と救急サポーター等の充実を図りましたが、藤野地区においては、AEDの備え付けは、公共的施設や大型店舗に普及していることにより町連としては現に全町内会に配置しているAEDを廃止し、最寄りのAEDを利用したらという声もあります。さらに、多額のリース代もかさむので廃止する方向で検討事項となっています。

時代の流れとはいえ、自主防災力の方向を大きく見直し、町連の基本的なあり方についても真剣に検討する時期となりました。

これからは、まちづくりの基本理念「みんなで考えみんなで参加する」をモットーに町連を維持し発展させていきましょう。

八年ぶりに十五島公園で

晴天に恵まれる中、さる八月五日、「第二十七回藤野ふるさとまつり」が盛況のうちで開催されました。

このまつりは、藤野地区町内会連合会、藤野地区社会福祉協議会と藤野中央商

写真でふりかえる 第27回 藤野ふるさとまつり 8月5日(土)

工振興会ならびに藤野商工振興会による実行委員会によるもので、今回は、八年ぶりに会場を十五島公園に移し、時間を午後一時からの開始となりました。

当日は、開会式に先がけて各町内会から参加の女性部百三十名による「藤野音頭」の披露もあり和やかに開幕しました。

開会式に続き、藤野地区の幼稚園、小中

校、高校やサークル、藤野太鼓など十二組のステージ発表やプロ歌手原大輔さんの歌謡ショーが行われ、恒例のお楽しみ抽選会で盛り上がりました。



佐達達也南区長の来賓祝辞



吉田実行委員長(町連会長)の開会挨拶



開会式前に行われた藤野音頭パレード



開会式で 多くの来賓の皆さん

今回は、このあと両商工振興会により「納涼盆踊り大会」が行われ、夜八時まで大勢の皆さんで賑わいを見せて、昨年に比べ大きく変化したふるさとまつりも、成功のうちに閉幕しました。



藤野南小学校スクールバンドによる吹奏楽演奏



藤野音頭パレード



藤野音頭パレード



マカナ・ノ・アロハサークルの皆さん



藤野空手サークルの子どもたちの空手演武



南陵高校 書道パフォーマンスの作品



初出場の南陵高校書道部の皆さん



わかは会の皆さんによる舞踊



藤野中学校吹奏楽部の演奏



藤野中学校吹奏楽部の熱の込める演奏



2年ぶりに原大輔さんの歌謡ショー



藤野太鼓の皆さんによる演奏



子どもたちの行列ができたエア遊具



いつも人気の商工会お楽しみ抽選会



藤野太鼓 小学生も力一杯の演奏



出店でかき氷を求める子どもたち



ステージ裏にはたくさんの出店がならんだ

町内会紹介

あらたな伝統を模索して

藤野高台町内会 会長 常見 信代

雨や雪解けでぬかるむ砂利道、冬になると車が登れないS字カーブ、汲み取り便所に簡易水道、公園がわりのクジラ山などなど。こうした状況を、何とかしなければ、と、昭和四十八年に九十六戸のみなさんによって「高台町内会」が結成され、それ以来、代々の役員が札幌市や南区との交渉を重ねて徐々に環境整備が進められてきました。

また、町内会の伝統を育むべく夏祭りや秋・冬の運動会など多彩な行事が催され、家族総出で楽しんできました。写真は、廃車となったバスをもらい受けて開設された念願の「町内集会所」です(昭和51年)。

それから半世紀近くたち三、四十戸を擁し、ロードヒーティングされるまでにな



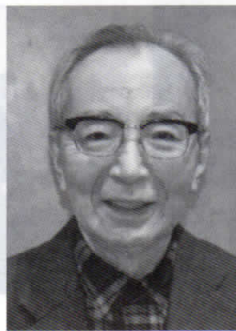
思い出がたくさんバス集会所

りました。しかし、少子高齢化の波はここにも押し寄せ、働き方の多様化と相まって役員の手不足だけでなく日中に回覧や会費徴集するのも難しくなっています。このため、伝統の精神を継承しつつ活動の見直しと重点化をはかっています。さらに、町内会の必要性を認識してもらうために従来の「会報」に加え、毎月の役員会の「議事録」を全戸回覧して身近な問題を

などを詳しく発信しています。目下の課題は「カルタ大会」参加の小学生を集めること。「下の句カルタ」は北海道の文化であり、高台の子供会には優勝した歴史も

天空の樂園

高見台町内会 会長 是安 恒夫



あります。元気なお年寄りの力を借りて世代間交流の一つとして「カルタサークル」を立ち上げ、定期的な「遊びの場」を模索中です。新米会長です。よろしくご指導をお願いします。

昭和四十四年、各町内会と共に分離独立し、早くも四十八年が経過しました。新しい町内会名を決めるに当り、当時は藤野も人家が疎らで、当町内会からは藤野全域がパノラマの様に見渡せ、素晴らしい眺望から高見台と名付けました。初めての総会は自治会館の二階でしたが、その時に町内会費が五百円と決まり

高く驚きましたが、この金額が現在まで続いている事も驚きです。その頃の状況は大部分が農地で、やっと住宅が建ち始めた頃です。以来町内会は、インフラ整備の活動が主体となり、現在も続いています。水道は、ポンプ―簡易水道―水道組合等の変遷を経過

電気は、農電からの移管、戸建ては建柱等が有料、電話は、農村電話を殆どが申し込み利用していた

道路は、大部分が私道で、市道昇格は現在も進行中

下水は、市道と同時併行でやっと近年完了

除雪は、私道で全域外活―私道部分市に移管―全域パートナースhipを利用

私道部分と排雪を含め一括業者依頼

街灯は、町内負担―市道部分有料で少しづつ移管―現在は私道以外移管終了

これらが整備されても、特に高齢者の生活は困難が解消しません。

藤野で高見台にしか無い自慢をあげても駄目ですが

- 一、唯一中学校がある。
- 一、町内会の下をトンネルが通る。(藤野通り)
- 一、一番高い所に邸宅あり(標高一五〇メートル寫田邸)
- 一、庚申塚がある。(大正七年建立の石碑)

あまり高齢者の困難解消には役立ちませんが。

最後にならないづくしを

- 一、ミセヤがない
- 一、バス停がない
- 一、信号機がない
- 一、郵便ポストがない

この環境でも二百九十戸は日々生活を送っています。

各専門部の活動から

2643人のお年寄りにお祝い

福祉部

75〜79歳は964人、80歳以上は1679人。藤野地区社会福祉協議会と町内会連合会の協同事業として、今年も九月十八日の敬老の日に祝辞やメッセージを送る「敬老メッセージ事業」を行いました。贈呈対象者は七十五歳から八十歳未満の六百九十四人、八十歳以上の六百七十九人となっております。八十歳以上の方には藤野小、藤野南小、藤の沢小の三校の児童にメッセージカードの作成を依頼しました。「子ども自身ががんばっている事」日ごろ地域のおじいさん、おばあさんとのふれあい」などについて、心あたたまる言葉を短冊に書いてもらいました。地域に暮らすご老人が、これからも元気に活躍されることを祈念し、両団体の祝辞と併せて児童からのメッセージを贈呈しました。

交通安全街頭啓発活動

地域安全部

交通安全運動は年四回季節ごとに行われます。藤野地区ではこれに合わせて、交通安全推進委員会、交通安全母の会と町連地域安全部が協力して、街頭啓発活動を実施しています。

秋の交通安全運動は九月二十一日(木)から三十日(土)まで全国一斉に開催されました。藤野地区の街頭啓発活動は九月二十九日(金)午前十時三十分から



実施しました。小雨模様で生憎の天候でしたが一四六人が参加して、地区センター前の国道二百三十号線の

両側に旗の波を作り、走行するドライバースピードダウン、飲酒運転を訴えました。

最後に、飲料水と札幌市からの記念品を配付して終了しました。

次回、冬の交通安全運動は十一月十一(土)から二十日(月)まで全道一斉に開催され、藤野地区では、十一月十四日(火)に実施しました。

子どもたち汗だくプレー

体育部

町連ドッジボール大会が藤野南小学校体育館で七月三日に行われた。吉田町連会長のあいさつに続き、南区体育指導員の加賀谷副部長からルール説明を聞き試合がスタート。参加者が少なく、三つの町内会のごどもたちで一チームを編成、出来あがった三チームでスタートした。

ボールが当たらないようコートを走り回る低学年の子の中には、ボールが当たって泣き出す子、高学年になるとボールの投げ合いが展開され、みんな汗だくで

プレーを展開した。参加が三チームにとどまり、順位なしの参加賞でした。今年は八町内会の子どもが参加しましたが、もつと多くの子どもたちが参加するようお願いします。

和気あつあつのハニー

体育部

体育部主催のパークゴルフ大会が好天に恵まれた九月三日に、男性四十二人、女性十七人が参加して行われた。吉田町連会長のあいさつに続き加賀谷副部長からルール説明を受けて競技がスタート。参加者は四コースに分かれて熱戦を繰り広げた。

男子は中津精祐さん(緑町町内会)が93打、女子は吉村美枝子さん(三区町内会)が103打で優勝した。参加者は初めての顔合わせでも互いに打ち解け、笑いあり失敗ありでプレーを楽しんでいた。

リーダー研修施設見学会

女性部

九月二十一日(木) 参加



者三十二名により「北海道開拓の村・ホクレンパールライス工場」見学会が行われた。バスの中で吉田会長・仙北副会長の挨拶があり、一路開拓の村へ。開拓の村では、ガイドさんの説明により、有形・無形の

財産や開拓当時の生活のありよう・文化の流れを示す建造物等を見学し、時折タイムスリップし、フロンティア・スピリットを感じ、また北海道遺産に接し歴史学習ができ感動のひと時を過ごしていた。次のホクレンパールライス工場見学では稲からお米が精米となる迄のチェック、我々に流通されるまでのプロセスを学び、地産地消の意識を一層強め、恵みに感謝!!の思い

を深めていた。

文化の秋を満喫

文化部

第二十三回文化展・第十六回フラワーガーデンング写真展が、九月九日、十日藤野地区センターで行われました。

味わいのある陶芸品、水彩画の柔らかな筆捌き、子供たちが生けてくれた秋の花、大きな壺に生けた秋の草花の見事さ、布あそびの袋物・手芸品の数々、艶やかなつるし雛、賞を頂いた見事な七宝焼き、書あり絵手紙あり、色彩に溢れたアートフラワーなど、七十六名の方から約六百点の作品が寄せられました。

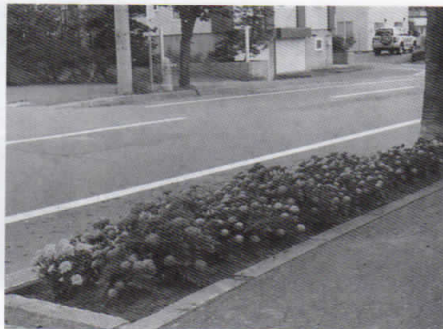


春から丹精込めた花々のガーデンング写真展。藤野の文化に満ちあふれた二日間でした。

花いっぱい運動

環境部

連合会は、町づくりビジョンで「花と緑、文化と福祉のまち藤野」を指針として花いっぱい運動を推進しています。



環境部は、花いっぱい運動事業推進のため開発局230ボランティアサポートプログラム、札幌市の歩道美化事業と緑の協定事業による花木株の助成を受けて植栽の拡充を行っています。



二十九年度も六月と十一月に花木株類、約一万二百株を各町内会歩道上に設置されている花壇柵に創意工夫を凝らした植栽を行いました。歩道上の花壇柵に植えられた花は、散歩する方たちや買い物ついでに通る人たちの心を和ませており「キレイ、ステキ」という声が聞こえています。

児童による「花いっぱい健康な町づくり」を実施

藤野地区青少年育成委員会

藤野地区青少年育成委員会では、藤野地区まちづくりビジョンに掲げる基本理念にあてはまる活動の一環として、藤野の三つの小学校で、子ども達が作った一輪挿しを自分の家庭と要介護施設の高齢者にお届けいたしました。

児童が真心を込めて作った一輪挿しを受け取った高齢者は、涙ぐみ感謝し受け取っておりました。今回は民生児童委員の方々にご協力頂き、町ぐるみの活動になりました。



編集後記

今年の「藤野ふるさとまつり」は、会場を十五島公園に移して開かれました。好天に恵まれ緑に囲まれ、さわやかな会場で出演者も観客も一体となった夏まつり。夕方から盆踊り大会、そして抽選会と楽しく終日を過ごした祭りでした。

今号の「ルピナス」編集に当たっては、町連各部の活動内容も紹介して、地域の交流を紹介する内容にしました。編集作業が遅れ、十二月に入っでの発行となりましたが、正副会長を中心に、何とか発行にこぎつくことができました。

(仙北、佐藤記)

ルピナス編集 スタッフ募集

連絡先

591-4930 佐藤

ルピナス第九九号
・平成二十九年十二月一日発行
・発行人 吉田 健治
・編集人 仙北 英治
・印刷所 佐藤 英之
・連絡先 札幌大同印刷株
公五九一—四九三〇(佐藤)